

フェスタサマーミュージザ

KAWASAKI 2020

ミュージザ川崎シンフォニーホール

サマーミュージザは全公演ライブ配信を実施しております。客席内と舞台上に映像収録カメラが入りますので、予めご了承ください。

神奈川フィルハーモニー管弦楽団

Kanagawa Philharmonic Orchestra

新世界へ！新たな音楽の生まれた国

7/28^火

● プレトーク
14:20~14:40
話=川瀬賢太郎
※本公演と同じお席でお楽しみください。

● 開演
15:00

● 終演予定
17:00

曲目

ドヴォルザーク：管楽セレナード 二短調 作品44 (25分)

Dvořák: Serenade for wind instruments in d minor, Op. 44

第1楽章 モデラート・クワジ・マルチャ 第3楽章 アンダンテ・コン・モート
第2楽章 メヌエット：テンポ・ディ・メヌエット 第4楽章 フィナーレ：アレグロ・モルト

J.S. バッハ：2つのヴァイオリンのための協奏曲 二短調 BWV1043* (15分)

J.S. Bach: Concerto for 2 Violins in d minor, BWV 1043

第1楽章 ヴィヴァーチェ
第2楽章 ラルゴ・マ・ノン・タント
第3楽章 アレグロ

— 休憩 (20分) —

ドヴォルザーク：交響曲第9番 ホ短調 作品95「新世界より」 (45分)

Dvořák: Symphony No. 9 in e minor, Op. 95, "From the New World"

第1楽章 アダージョー アレグロ・モルト 第3楽章 スケルツォ：モルト・ヴィヴァーチェ
第2楽章 ラルゴ 第4楽章 アレグロ・コン・フォーコ

※演奏時間は目安です。

出演

指揮：川瀬賢太郎(常任指揮者)

ヴァイオリン：石田泰尚(首席ソロ・コンサートマスター)*

ヴァイオリン：崎谷直人(ソロ・コンサートマスター)*

ゲスト・コンサートマスター：千葉清加 ※J.S. バッハのみ

コンサートマスター：石田泰尚 ※ドヴォルザーク「新世界より」のみ

※出演者・公演内容につきましては変更が生じる場合がございます。

■出演者プロフィール



©Yoshinori Kurosawa

指揮：川瀬賢太郎 Kentaro Kawase, *Conductor*

1984年東京生まれ。2007年東京音楽大学音楽学部音楽学科作曲指揮専攻(指揮)を卒業。指揮を広く上淳一氏等に師事。2006年東京国際音楽コンクール「指揮」において1位なしの2位(最高位)に入賞。神奈川フィル常任指揮者、名古屋フィル正指揮者、オーケストラ・アンサンブル金沢常任客演指揮者、八王子ユースオーケストラ音楽監督。三重県いなべ市親善大使。第64回神奈川文化賞未来賞、2016年第14回齋藤秀雄メモリアル基金賞、第26回「出光音楽賞」、横浜文化賞文化・芸術奨励賞を受賞。東京音楽大学作曲指揮専攻(指揮)特任講師。



©藤本史昭

ヴァイオリン：石田泰尚 Yasunao Ishida, *Violin*

国立音楽大学を首席で卒業、同時に矢田部賞受賞。新星日本交響楽団コンサートマスターを経て、2001年より神奈川フィルハーモニー管弦楽団ソロ・コンサートマスターに就任。以来“神奈川フィルの顔”となり現在は首席ソロ・コンサートマスターとしてその重責を担っている。これまでに神奈川文化賞未来賞、横浜文化賞文化・芸術奨励賞を受賞。幅広いレパートリーを誇り、神奈川フィル他各地のオーケストラと協奏曲の演奏やリサイタルを行いソリストとしての顔も持つ。2018年「音楽の友」4月号「クラシック音楽ベストテン」においてソリスト・室内楽など4部門にランクインするなど各方面から高く評価されている。

ヴァイオリン：崎谷直人 Naoto Sakiya, *Violin*

1987年生まれ。ケルン音大、パリ音楽院、桐朋学園ソリストディプロマを経て、パーゼル音楽院修了。ノボシビルスク国際コンクール第1位、メニューイン国際コンクール第3位。東京フィル、京都市響、神奈川フィル、パーゼル響、ノボシビルスク・フィル等と共演。また、東京フィル、九響、読響、都響などにゲスト首席、コンマスに招かれる。宮崎国際音楽祭、軽井沢八月祭、王子ホールMAROカンパニー、シュヴェツィンゲンSWR等、国内外の演奏会に出演。2006年ウェルズ弦楽四重奏団を結成。現在、神奈川フィルハーモニー管弦楽団ソロ・コンサートマスター。

■オーケストラ・プロフィール

神奈川フィルハーモニー管弦楽団 Kanagawa Philharmonic Orchestra

【創設】 1970年、神奈川県内の音楽家が集まり発足。2020年に創立50周年を迎える。

【指揮者】 川瀬賢太郎(常任指揮者)、小泉和裕(特別客演指揮者)、現田茂夫(名誉指揮者)、團伊玖磨(桂冠芸術顧問)、山田一雄(桂冠指揮者)

【楽団員数】 70名

【ホーム・コンサート・ホール】 横浜みなとみらいホール、神奈川県民ホール、神奈川県立音楽堂

【楽団ウェブサイト】 <https://www.kanaphil.or.jp/>



<p>●感動をもう一度！アーカイブ配信で 本日の演奏をお楽しみいただけます。 1公演 1,000円 配信期間：公演翌日12:00~8/31(月)23:59 https://tiget.net/tours/summermuza2020/</p>	<p>●アンコール曲 ●ほほ日刊サマーミュージザ ONLINE! ●アンケート ●パートナーショップ特典 はこちらの特設サイトより</p>
---	---

ミュウザ川崎シンフォニーホール ホールスポンサー		ミュウザ川崎シンフォニーホール公演事業は、ホールスポンサーの皆様によって支えられています。		
<p>法人 【特別賛助会員】 NTTアドバンステクノロジー株式会社 川崎幸病院 川崎信用金庫 川崎フロンターレ キャンノ株式会社 サントリーホールディングス株式会社 大本山川崎大師平間寺 三井不動産グループ 株式会社ヨドバシカメラ</p> <p>【賛助会員】 税理士法人あおぞら会計 味の素株式会社 川崎事業所 アルファクス株式会社 株式会社イープラス ENEOS株式会社</p>	<p>有限会社エムシーエス・デザインズ 神奈川臨海鉄道株式会社 川崎アゼリア株式会社 公益社団法人川崎市医師会 川崎市信用保証協会 公益社団法人川崎市病院協会 一般社団法人川崎市薬剤師会 川崎臨海バス株式会社 川崎日航ホテル かわさきファズ株式会社 川崎臨海倉庫埠頭株式会社 株式会社きんでん 株式会社ケイエスピー ケイジーケイ株式会社 京浜楽器株式会社 株式会社さいか屋 川崎店 公益財団法人JFE21世紀財団 株式会社シグマコミュニケーションズ</p>	<p>セレス川崎農業協同組合 高橋昌也税理士・FP事務所 株式会社デイ・シー 東亜石油株式会社 株式会社 東芝 東洋ロザイ株式会社 日本窯炉株式会社 びあ株式会社 富士電機株式会社 ホテルメトロポリタン川崎 株式会社ムーブエイト ヤマハサウンドシステム株式会社</p>	<p>個人 阿部 孝夫 磯野 和久 市橋信一郎 井上 敏昭 連藤 智和 大木志乃生 大越麻美子 大塚 具幸 小笠原 将 岡野 功 小野 洋彰 金山 直樹 喜多 紘一 久住 映子 小宮みつほ 後藤 実 小林 知子</p> <p>他1法人</p>	<p>齊藤 隆徳 佐藤 亨 佐藤 晴茂 鈴木 徹 関口 浩・三代子 高橋 美子 竹内 啓介 都築 豊 中村紀美子 西山 英昭 橋本あみ子 長谷川喜代江 林 直人 平野 信子 廣瀬 治昇 前田 泉 松本 武巳 山内 利夫</p> <p>敬称略五十音順</p>

(2020年7月1日現在)

△新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、ご協力をお願いいたします。

【お客様へのお願い】

※マスク着用、手指消毒にご協力ください。
※終演後は、スタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いている扉から混雑を避けてお帰り下さい。
※出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
※万一、クラスター(感染集団)の発生が明らかになった際、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

【館内設備について】

※クローク、ドリンクコーナー、ショップの営業はございません。
※冷水器の使用は停止しております。
※換気のため、通常よりも空調を強めにしております。また、隣席を空けているため、普段よりも寒く感じる場合がございます。(ブランケットの貸し出しは中止しております)
※アンコール曲は公演後、当ホールホームページに掲載いたします。

ご登録をお願いします

神奈川県 LINE コロナお知らせシステム

会場内に掲示しているQRコードを読み取ってください。新型コロナウイルスに感染された方が発生した際、保健所の調査に必要と判断された場合にLINEメッセージが届きます。

※来場日ごとに、QRコードの読み取りをお願いします。

ホール内は小さな音でもよく響きますので、ご協力をお願いいたします



演奏中の入退場はご遠慮ください。



全席指定の公演です。ご自分のお席でお聴きください。



ホール内客席では携帯電話、スマートフォンなど全ての電子機器の電源をお切りください。タブレット端末など光を発する機器も、周囲の方の鑑賞の妨げとなりますので、ご使用にならないようお願いいたします。



時計のアラーム・時報などは設定の解除をお願いいたします。



許可のない写真撮影、録音、録画は固くお断りいたします。



鈴のついたアクセサリー、お手荷物などは演奏中に音が出ないように、十分ご注意ください。また、アメの包み紙を開ける音にもご注意ください。



ホール内での飲食はご遠慮ください。



※曲が終わったとき、音が消えゆく余韻を十分に味わってから、拍手をお送りください。

【補聴器をお使いの皆さまへ】

補聴器が正しく装着されていることをご確認くださいませよう、お願いいたします。

主催：川崎市、ミュウザ川崎シンフォニーホール(川崎市文化財団グループ)
後援：川崎市教育委員会、公益社団法人日本オーケストラ連盟、J-WAVE 81.3FM、OTTAVA
助成：文化庁文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業)|独立行政法人日本芸術文化振興会
映像・音響制作：YouClassics
協力：株式会社東京MDE、エヌ・ティ・ティ・スマートコネクト株式会社



「管弦楽」を代表する名曲と、「管」と「弦」の名品と、

今こそ聴きたい

●ドヴォルザークの名旋律で管楽器の魅力を味わう

ドヴォルザーク:管楽セレナード

アントニン・ドヴォルザーク（1841～1904）による「セレナード」は、弦楽のためのもの（作品22）と管楽のためのもの（作品44）の2作品がある。前者は抒情的なロマン性と旋律美が発揮され、後者は素朴で古典的な様式美をもち、いずれもそのジャンルの名作として愛されている。

「管楽セレナード」の作曲は1878年。ドヴォルザークの名を世に広めた「スラヴ舞曲集（第1集）作品46」など、意欲的な作品を生み出し続けた充実期の作品で、初演は同年秋、プラハで作曲家自身の指揮で行われた。管楽器ならではの伸びやかで温かい響きと、ドヴォルザークならではの愛らしい旋律が、古典的な形式に則った均整の取れたバランスで楽しめる逸品である。

楽器編成はオーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、コントラファゴット（任意）、ホルン3、チェロ、コントラバス。音楽の土台となる低音部を充実させるためにチェロとコントラバスも加わることで、むしろ深く「管楽」の魅力が楽しめるのも妙味である。

第1楽章 哀愁ある行進曲風の音楽。

第2楽章 ひなびたメヌエットの主部に、チェコの舞曲フリアントのリズムによる中間部が挟まれる。

第3楽章 穏やかな緩徐楽章で、どこまでも広がる田園風景のような、のびやかな旋律美を満喫できる。

第4楽章 緊張感のある音楽で盛り上がりを作り、第1楽章の行進が再現され、最後は二長調の明るい響きで終わる。

●バッハの緊密な傑作で弦楽器の響きに浸る

J.S. バッハ:2つのヴァイオリンのための協奏曲

ヨハン・ゼバスティアン・バッハ（1685～1750）によるヴァイオリン協奏曲は、1人の独奏のための2作と、2人の独奏による1作の、計3作品が遺されている。なかでも「2つのヴァイオリンのための協奏曲」はユニークな存在感をもつ人気作で、ヴァイオリン学習者にとってもおなじみの作品である。

2人のソリストは対等に掛け合い、ソロ同士の（ときにはソロとオーケストラの）対話、緊張、融合など、短い時間の間に様々な関係性を見せる。弦楽とチェンバロによるオーケストラもただの伴奏ではなく、すべてのパートが対位法により細かく絡み合うが、あくまで聴きやすさと楽しさを失わないのもバッハ一流の業である。ソロの名技とオーケストラの響きによる「弦楽器」の魅力をご堪能あれ。

第1楽章 第2ヴァイオリンから始まるテーマで、全体が緊密に構築されていく。

第2楽章 オーケストラはシンプルな伴奏になり、ふたつのヴァイオリンの旋律線が温かく絡み合い、最高の音の織物を作り上げる。バッハの緩徐楽章の中でも白眉と目される名品。

第3楽章 前楽章から一転して切迫した音楽で、ソリストたちの鮮やかな技巧が展開されていく。

●オーケストラの楽しさを満喫できる、無二のシンフォニー

ドヴォルザーク:交響曲第9番「新世界より」

ドヴォルザークは、アメリカに新設されたニューヨーク・ナショナル音楽院の院長として招かれ、1892年、祖国チェコからアメリカに居を移した。同地の生活は約3年に及び、先住民の音楽や黒人霊歌に積極的に触れて研究した成果として、アメリカ音楽とチェコ音楽の要素が融合した傑作群が生み出された。その最初の大きな結実となったのが、「新世界より」と呼ばれる交響曲第9番である。1893年にニューヨークのカーネギーホールで初演されて大成功を収め、以来「管弦楽」の魅力が詰まった代表的名作のひとつとして不動の人気を保っている。

作品全体で、「新世界」アメリカの音楽、「故郷」チェコのボヘミアの音楽、そしてヨーロッパの形式という「伝統」といった要素が混在しながらも、矛盾せず一体化していることは大きな特徴と言えるだろう。そして、これらの要素を絶妙にまとめるのが、ドヴォルザークならではの名旋律の数々である。なお、アメリカの黒人霊歌等にヒントは得ていても、直接的な引用はひとつもなく、旋律自体はすべてドヴォルザークのオリジナルである。

第1楽章 作曲者の円熟を示す、序奏付きのソナタ形式による充実した楽章。

第2楽章 「家路」などの歌への編曲でも知られるコール・アングレのメロディをはじめ、郷愁を誘う名旋律にあふれる、ラルゴの緩徐楽章。

第3楽章 リズムの面白さと豊かな歌を楽しめる、舞曲的なスケルツォ楽章。

第4楽章 機関車がスピードを上げていくかのような開始と、それに続く金管の勇壮な主題は大きな聴きどころ。すべての楽章の主題が巧みに組み合わせられて展開し、最後は管楽器の和音が伸ばされ消えていく。

■インタビュー

神奈川フィルと深い境地をめざして

川瀬賢太郎
(神奈川フィルハーモニー管弦楽団 常任指揮者)

●あたたかいホームにして、最も怖いオーケストラ

神奈川フィルについては、29歳で常任指揮者に就任させていただきました。最初は自分のホームができたうれしさ、楽しさが強かった記憶がありますが、だんだんお互いが求めるものが大きくなり、プレッシャーも強まり、いまは僕にとって最も怖いオーケストラでもあります。もちろんそれはネガティブな意味ではなくて、責任感と緊張感を持ちながら、より深い境地をめざして、ひとつひとつの本番を大切に作り上げています。

当団の誇るコンサートマスター、石田泰尚さんと崎谷直人さんは、全くキャラクターの違うすばらしいヴァイオリニストで、僕もおふたりから得るものが多いです。今回おふたりが同時にソロを務めるのは貴重なチャンスで、本番でどんな演奏を披露してくれるのか、楽しみでなりません。

●すてきなホールで、神奈川フィルとの「いま」を聴かせたい

ミューザ川崎はすばらしいホールで大好きです。このフェスタはここ数年、ますます企画が面白くなっていて、各団体のプログラムも“こんなものを持ってくるのか！”と驚かされることが多いですね。よく考えたプログラムじゃないとここには臨めないという責任感もあります。

神奈川フィルもちょうど世代交代の時期で、この6年間で元からある魅力に新しい色やテイストが加わり、さらに響きが深化している手応えを感じています。管楽器と弦楽器の各セクションの充実ぶりをお聴かせできる機会にもなりましたので、じっくりお楽しみいただきたいと思います！

(取材・構成＝林昌英)